

2 月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和7年2月19日（水）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	13時30分 から 15時10分まで		
出席者	教育長	高森 賢一	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、甲斐千尋、遠田真央	
	参 与	丸山真二、工藤靖治、竹光俊司、岩佐正文、佐藤健一郎、早瀬誠一郎、 吉田尚良、田崎俊久、山本栄作、太田康晶、岡田健一、田中政秀	
◎ 開 会 高森教育長が開会を宣した。 （13 時 30 分）			
◎ 会議録の承認 1 月 22 日（水）に開催された 1 月定例教育委員会の会議録が承認された。			
◎ 事務報告 ◆教育長より以下の業務報告が行われた。 ・文科省「最先端技術及び教育データ利活用に関する事業」第3回実証研究委員会情報交換会 ・南方小第2回ジグソー法研究会 ・新しい学びプロジェクト第2回連絡協議会、報告会、教科部会 ・文部科学省訪問 ・市PTA連協と市教委の意見交換、懇親会 ・宮崎市夜間中学、新プール視察 ・校長会との協議（講師任用関係） ・第3回初期研修（産学官合同） ・延岡市人権啓発推進大会 ・家庭教育学級閉講式 ・北浦小 150 周年記念式典 ・若山牧水青春短歌大賞授賞式、祝賀会 ・家庭倫理の会延岡市創始 60 周年記念講演会 ・北浦中訪問（企業コラボスイーツ開発関係）			

◆教育委員より以下の報告が行われた。

◎) 2月の図書館の事務報告の中にもある「定例おはなし会」について、図書館が毎週木曜日に実施しているということで、先日参加したので、少し感想を申し上げたい。当日は4組の家族が参加されていた。読み聞かせを行っている部屋はたいへん静かで、集中できる雰囲気がとても良くて、落ち着いたおはなし会の様子を拝見することができた。自分自身も何か心が癒されたような感じがした。絵本を読んだ司書の方々も、表情や声の使い方など意識して読んでいたので、子どもたちもしっかり聞いていて、絵本の中に入り込んでいる様子がとってもすばらしいなあと思いながら見ていたところである。終わった後に司書の方々と少し話をしたが、参加する子どもたちの年齢や興味のある選書など、そういった苦勞の話も聞いたが、そういった工夫をされている様子、そういったものも聞けてよかったなと思っている。当日も、ちょうど節分の時期だったので、節分であったりとか、また、前日に雪が降ったというようなことを子どもたちに問いかけなどをして、その時々話題を挙げたアイスブレイキングにつなげている。そういったコミュニケーションを大切にしている様子もたいへんよかったなと思っている。小さいときからのこういった読み聞かせっていうのはいろいろと効果があると言われている。例えば、読解力の向上であったりとか、創造性を育てるとか、社会性の成長を促すとか、いろいろないい面が挙げられているが、なかなか最近では少なくなっている状況の中で、こうした読み聞かせの機会というのはたいへん大切な機会ではないかなと思っているところである。そしてなにより親子で参加されているので、お父さんお母さんが今度は家で読んであげる機会に繋がったり、親子のきずなを深めることにも繋がっていく機会にはなっていくのかなと思っているところである。子どもたちの読書離れが大変課題になっている今日この頃だが、こうした図書館の読み聞かせ等の提供というのはたいへん貴重かなと思っているので、多くの子どもたちに、こういった機会を通して体験をさせていくことは必要になっていくんじゃないかなと思っている。先日、短い時間だったが、たいへんよい読み聞かせを見せていただいたなと思って帰ったところであった。

◎) 1月31日に西階中学校の立志式で、1時間半程度講演をしてきた。すごく寒くて子どもがかわいそうだなと思いながら話をしたが、終わった後に子どもたちの意見や質問があるかなと思ったが、かなりあって、いろんなことを聞いてもらったので、寒くてもちゃんと聞いてたんだなと感じて、よかったという気持ちで帰ってきた。次は、2月8日にA V

C放送の国スポ関係の取材があり、国スポが身近に来ているんだなって感じたところである。2月14日の善行児童表彰では、個人が6名、団体が3チームあった。たくさん子どもたちがいるが、やっぱり6人もそういう子どもたちが出たのはすばらしい。やっぱり今の時代にこういうことを実行する子どもたちがいるっていうのはすごく幸せだなあと、思って表彰したところであった。また、夜は校長先生たちの卒業式というようなお別れ会に参加した。今度の土曜日、2月22日にはのべおか花物語の開会式に参加する予定である。

◎) 2月14日の校長会に参加した。今回2回目になるが、私は教育委員になる前の校長先生っていう人のイメージ、印象が僕の中ですごく良いほうに変わったというか、もっと堅い真面目な人ばかりなのかなと思っていたが、すごくユーモアがあって、頭の回転がすごく早くて、ボキャブラリーもすごく、その辺りが子どもたちや保護者などにもっと伝わると、学校への見方とか、校長先生に対する見方とかが変わって、もっと近い存在、いい意味で近い存在になれるんじゃないかなと思った。

◎) 2月7日に前教育長の澤野氏に会う機会があって、近況を聞いたが、全国を飛び回っておられ、外国に行かれた話もされており、いろんな形で活躍されているなあと、思った。非常に元気にされていた。2月10日には劇団四季のファミリーミュージカルを見学した。文化センターの大ホールであったが、小学校5年生が各市内、そして郡部からも来ていた。非常に感動する劇で、歌って踊って、またセリフまで言う。やっぱりプロはプロだなあって感心することが多かった。その話を小学校の4年生の孫に言ったら、来年行けるっていうことで楽しみにしていた。延岡市内で、毎年劇団四季のミュージカルを見学できるっていうのを楽しみにしているんだなっていうのを、孫を通して感じたところである。

◆各課からの事務報告

- 学校教育課長から、1月23日のコミュニティ・スクール研修会や1月期の生徒指導に関する状況等について報告があった。

◎ 議 事

◆議案第22号 令和7年度延岡市一般会計予算（教育委員会分）

- 各課館長より、令和7年度の当初予算について説明がなされ、下記の質疑の後、異議なく承認された。

◎) 誰一人取り残さない「新たな学びのフィールド」構築事業について、人件費が3777万9000円とあるが、その内容について伺いたい。

- ⇒) アウトリーチ・オアシス教室の支援員の方々、そしてオンライン学習支援室の支援員の方々が人件費の主な経費となっている。
- ◎) 3点伺いたい。まず1点目は、特別支援教育学習活動サポーター事業の中で、看護師の配置っていう項目が多分新しく今度入ってきていると思うが、この配置のイメージってというのは、特定のそういった子どもがいる学校に配置していくっていうイメージでよいのか。2点目は、学力向上指導員配置事業。これは20名ということで、本年度は多分10名だった部分が20名になっているので、大変素晴らしいなっていう思いを持っているが、本年度の10名を充当するのにもかなり苦勞されていたんではないかなあと思うので、このところは、予算化されている部分については、学校にとってはありがたいなと思うが、事務局としてはなかなか大変だろうなあという思いを持っている。今年度の10名の充当状況はどうだったのか伺いたい。3点目は、スクールソーシャルワーカー等の配置について、本年度は誰1人取り残さない「新たな学びフィールド」構築事業の中に入っていた項目だと思うが、これは新しく事業を整理してこちらの方に移したという考え方でよいのか、以上3点について伺いたい。
- ⇒) まず看護師の配置について、糖尿病のインシュリン注射や導尿をしないといけない子どもたちが年々増加してきている。現状としては、来年度約4名の子どもたちがこのような医療行為を伴うことに該当するのではなかろうかということなので、その子どもの医療行為が必要な場面に立ち会う、またはその医療行為を行うことの他にプラスして、これまで特別支援教育で対応してきた子どもたちの指導にも当たってもらう。看護師を直接雇用するのか、若しくはそういう機関、団体をお願いして派遣をしてもらうのかということについては、その子どもの状態に応じて決めようと考えているところである。2点目の、学力向上支援員の配置状況についてはお察しの通りだが、充当については、10名すべての配置が終わった。ただ期間がどうしてもずれていったので、最終的には3学期になってようやくということもあった。学校が求める教科について、今年実施してみて、いろいろ違うというところが分かった。今年度は原則算数・数学にということでスタートを切ったが、学校によっては英語などの学力向上に必要だということがあったので、その辺りを勘案して配置を進めてきたところである。来年度の20名については、学校のそういった要望に最大限答えようということで、算数・数学のみならず、他教科でも、学校の困り感に応じて配置を進めていこうと考えている。3点目については、先ほどA委員が言われた通りであり、新規事業の関係で事業を整理したものである。
- ◎) 教育に関わる予算から、頑張られているっていう状況がうかがえるので、大変ありがたいなと思っている。学校も非常に有効に活用できる部分も多いのかなと思っている。素晴らしいなと思ったところである。
- ◎) 中学校の民間プールの活用について、目的はプールの老朽化対策などだと思う。それで民間のプールを借りてやるということだが、今3校やっているのか。それを今からもう少し増やしていくのか、

それとも今ある学校のプールで賄っていくのか、だんだんそれに変更していくのかについて、もしそういう構想があれば伺いたい。

⇒) 本事業についてはまず令和7年度からの実施ということで、今年の6月、7月から開始する事業である。ただ、初めての試みということで、民間プールの業者についても、学校についても一気に負担が増えないように、4校で実施しようとしている。プールの改修費用や、先生達の働き方改革の面から、当然極論をするとすべての学校が委託できればよいとは思いますが、民間プールのキャパシティもあるので、それをこのモデル事業で、どこまで増やせるかというのを実験的にやっていく中で学校数が決まってくる。今の段階ではどの程度まで増やすかについては未定である。

◎) これは今6、7月の水泳の授業で、これをもし年間を通してやっていくっていう計画も今からいろいろ考えられると思う。6月、7月だけで回そうと思ったら、たった2軒しかない民間のプールではなかなか難しいと思う。それを1年間通して、温水だから使えるので、そういう考えはなかったのか、それともあるのか。まだ今からだと思うが、教えて欲しい。

⇒) もちろんその辺りも少しずつ学校と市教委とでいろいろ話し合いながら進めているところであり、6月、7月に限らずという話題が出ている。ただし寒い時期だとバス移動中は暖かいが、途中の移動や、バスから降りる時に髪が濡れたままで冷えてしまったりとか、そういうところもあるので、少しずつ増やしていく段階で、どこまでできるのかということも含めて研究していきたいと考えている。

◆議案第23号 未来へつながる延岡市教育環境づくり検討会議委員（全体検討会議）の委嘱（教育政策課）

- 教育政策課長より、未来へつながる延岡市教育環境づくり検討会議委員（全体検討会議）の委嘱について説明がなされ、異議なく承認された。

◆議案第24号 文化財の指定（文化財・市史編さん課）

- 文化財・市史編さん課長より、文化財の指定について説明がなされ、異議なく承認された。

◎ 協議事項

◆図書館のデジタル化事業の現状（図書館）

- 図書館長より、下記のとおり説明を行ったのち、協議を行った。

○令和5年度は、図書館のデジタル化が大きく進展した年であった。約1年経過した現在の状況について報告する。

○昨年度図書館が実施したデジタル化事業について、まず1点目は「図書館システム整備事業」で、こちらは国からのデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、図書館システムの再構築を行ったところである。2番目は「地域資料デジタル化事業」で、貴重な地域資料を劣化や破損等から防ぎ、永く後世に残すために、デ

デジタル化を実施したところである。

○図書館システム整備事業については、マイナンバーカードの市民カード化を行った。これについては、まずマイナンバーカードを図書館の利用者カードとして利用できるようにシステムを改修し、令和6年の1月16日から運用開始している。

○2番目に、マイナンバーカードを活用し、図書館に出向くことなく、延岡市の情報アプリである「のべおかポータル」から利用者登録や蔵書検索、電子図書館の利用ができるようにシステムを改修し、利便性の向上を図ったところである。これについては令和6年2月27日から運用を開始している。次に、図書館サービスの拡充については、24時間365日利用可能な電子図書館を令和5年11月3日に開館し、1028冊の電子書籍、180タイトルの電子雑誌の提供を行った。電子図書館は、宮崎市に次いで県内2番目の運用開始となった。現在では、その他にえびの市、県立図書館等も電子図書館を始めているところである。

○また、図書館で借りた日や書籍名、著者名を記録として残せる図書館通帳のサービスも開始した。この図書館通帳は銀行の預金通帳と同じような形となっており、図書館本館に設置している記帳機で記帳できる。子どもや高齢者の方に大変利用されているところである。

○マイナンバーカードの登録状況について、令和6年1月16日の運用開始から約1年後である今年1月末現在の登録状況は351人となっている。運用開始当初は、登録者はかなり少なかったが、現在マイナンバーカードと健康保険証が一体化されたマイナ保険証が進んだことや、図書館の利用カードの有効期限が3月31日までで更新制となること、また、積極的にマイナンバーカードの登録の案内も行っていることから、年度末までには登録者数もかなり増えてくるんじゃないかと思っているところである。のべおかポータルで登録したのは全体で14人で、こちらはあまり活用されていない状態となっている。ニーズが少ない理由について、情報担当部署に問い合わせたところ、登録にマイナンバーカードのパスワードが必要で、それを覚えていない方もあり、その時点で登録を断念する方が多いようである。またこののべおかポータルの運用については、同じ時期に、子どもの医療費受給資格証のオンライン申請や福祉子育ての相談予約、オンライン面談等も同じ時期に実施されたが、こちらも同じようにあまり件数的には増えていないということなので、情報担当課と連携しながら、少しずつ広報していきたいと思っている。

○電子図書館の状況について、令和5年の開館時は、電子書籍が1028冊、電子雑誌が180タイトルでスタートした。直近の令和7年1月31日末では、電子書籍が2025冊、電子雑誌が268タイトル提供できるようになっている。また電子書籍については有期限と無期限があり、有期限のものについては、利用期間が2年間、若しくは貸し出し回数が52回まで閲覧できるものである。無期限については、利

用制限がなく、いつまでも読むことができるような形になっている。1月31日時点で無期限に比べて有期限の書籍が増えている。当初は有期限が314冊、無期限が714冊で、倍ぐらい差があったが、今現在は有期限が1078冊、無期限が947冊となっている。これは、昨年6月に、約半年経ったということで、利用状況を確認したところ、新作や人気がある有期限のほうは約7割借りられていたので、そのことを考慮し、書籍については現在、有期限のほうに力を入れて購入するようになっている。

○電子雑誌はサービス提供会社が直接出版社と契約した雑誌が提供される仕組みになっており、当初は180で、1月末が268タイトルと、年々増加している傾向である。電子雑誌については、同時に20人が利用できるようになっている。また雑誌の最新号については、図書館内でのみ閲覧が可能となっている。また、雑誌についてはバックナンバーも読むことができ、雑誌によって違うが、1年から3年分まで、昔のものを見ることが可能となっている。

○電子図書館の利用状況について、ログインした数は、大体1日平均20.2回。貸出冊数は1日平均7.2冊となっている。新刊の書籍が入ったときはログイン数も貸し出し数も伸びるが、ちょっと時間が経つとやはり数字は落ちてしまうような傾向にある。

○電子図書館の開館にあたっては、日中に図書館に来館することが困難なビジネスマン、子育て、介護などをしている方、身体的に来館が困難な方をメインターゲットとしてとらえ、それに見合った電子書籍の購入を行ったところである。貸し出し状況を見ると、30代、40代、50代の方たちが全体の4分の3、約75%を占めていることを見ると、まさにターゲットと設定していた方々が利用しているんじゃないかと考えている。今後の課題としては、10代未満、10歳代等々の利用が大変少ないので、紙の書籍と同じようにヤングアダルト関係の図書も新たに購入したいと思っているところである。

○図書館通帳は、1冊で大体336冊まで記録することができるようになっている。1月末現在で873冊発行しており、発行状況を見ると、10歳未満が32%、60歳70歳が各10%程度となっており、子どもや高齢者によく利用されている状況が分かる。また2冊目、3冊目になっている利用者もあり、大変楽しみに利用されていると感じている。

○地域資料デジタル化事業について、まず1点目は地元新聞である延岡新聞等のデジタル化。地元発行の新聞は、延岡市の事件、出来事が詳細に記載されており、延岡の歴史を知る上で大変貴重な郷土資料となっている。しかし、新聞に使用されている紙は、紙質が悪い上に破損しやすいなど、保存するのに問題があるため、後世に残すにはデジタル化が欠かせないこととなっている。当館では、延岡新聞他7誌の地元新聞が30冊、約8万ページあるので、それらをスキャンし、PDFデータとして保存し、その後、記事の検索がしやすいように、見出しのキーワー

ド付与を行うものである。

○2点目は、視聴覚資料のデジタル化。「延岡 50 年のあゆみ」や「城山の鐘祭り」など、16 ミリフィルムやビデオテープで保存された映像資料や、宮崎や延岡の方言など、カセットテープで保存された録音資料が図書館には保存されている。16 ミリフィルムは、酢酸臭がするビネガーシンドロームやビデオテープのカビの発生、磁気の不具合で映像にノイズが走るなどの経年劣化が見られることなど、資料自体の問題や、16 ミリ映写機やビデオデッキ等の再生機器の生産がすでに終了し、故障した場合に交換部品が無いなどの機材の問題等もある。このような問題を解消するために、地域資料として残すべき貴重な資料として、昨年 16 ミリフィルム 4 本、8 ミリフィルム 2 本、ビデオテープ 82 本の映像資料及びカセットテープ 53 本の録音資料のデジタル化を実施した。

○新聞のデジタル化について、進行表に載っている通り、延岡新聞から夕刊ポケットまでの 300 冊、7 万 9849 ページをデジタル化する予定としている。令和 3 年度から作業を開始し、今年度末で 62 冊、2 万 879 ページのスキャンと、52 冊、1 万 7309 ページのキーワード振りが終了する予定となっている。キーワード付与まで終了した進捗率はページ数で 21.7%となっている。今後については、事業の予算によるが、令和 15 年度までにデジタル化を完了したいと思っている。

(※この後、図書館の担当職員から、のべおか電子図書館、新聞のデジタル化について、実際の画面を示しながらの説明があった。)

◎) のべおかポータルで顔認証の機能はないのか。

⇒) 顔認証の機能はついていない。

◎) それができたらいいと思った。本の著作権について伺いたい。あれは 1 冊の本、電子書籍を市で購入して、それを無料で貸し出す形なのか。

⇒) 厳密に言うと、書籍の購入ではなくて、書籍を読む権利の購入になるため、ライセンスがあって、この回数までしか借りられないっていう契約だったり、何年か経ったらその契約が終わるので使えなくなるというデータとしての扱いになっている。

◎) 例えば、この電子書籍を寄付することはできるのか。

⇒) 例えば、電子書籍自体を閲覧するプラットフォーム、Kindle のような、そういったものが図書館向けのサービスとしてやってもらえれば、そういった kindle の購入者から図書館向けに寄贈という構築はできるかもしれないが、現状図書館向けのサービスとして作られているものが、そのサービスを提供している会社が契約できた出版社の作ったもの、さらに著作者から協力を得られたものだけになるので、おそらく一般の方が持っているものとなると、図書館と取扱いが違うた

め、現状ではできないと思う。

◎) 市がお金を支払っているが、その市にお金を寄付してということはできるのか。お金を寄付して、これを何々の本に使ってくださいういうのはできるのか。

⇒) 寄付については、そのお金を受け取って、私どもが電子図書館事業に使うことということは可能。

◎) 本の指定はできないと思うが。

⇒) 権利処理が済んでいるかどうか分からない。たまたまという場合はあり得るかもしれない。

⇒) とりあえず、電子図書館となると、不特定多数の方が見られるようになるので、そういった関係で、個人で買う電子書籍よりは高めの設定になっている。そういう違いがあると思う。

◎) 図書館通帳について、例えば1冊、1ページ終わったら何か特典があるなどがあると面白いんじゃないかと思った。

⇒) 意見として承りたい。

◎) 本を見る時に、あれは保存されるのか、それともそのページに行かないと見られないのか。

⇒) そのページにしか行かないと見られない形になる。つまり、ダウンロードしているというより、映像等をストリーミング方式と言って、その場所だけダウンロードする方式があると思うが、それが本にも適用されているというような、今表示されているページの部分だけが、あくまでパソコン上で呼び出されているっていう形になる。

◎) 先ほど説明のあった新聞のデータが面白かったが、スクリーンショットはできるようになっているのか。

⇒) パソコン自体ではできるが、ただ閲覧できるパソコンが図書館で用意する端末だけなので、スクリーンショットを撮られたとしても、その端末はUSB等が接続できないように設定されているため、持ち帰ることはできない。

◎) 新聞はコピーをお願いしたら対応してくれると思うが、それは適用されないのか。

⇒) 紙でも残しているので、それもコピーはできるし、有料になるが、図書館で画面上コピーしたものを渡すことはできる。

◎) 通帳は有料か無料か。

⇒) 何冊でも無料である。

◎ その他

◆ 3月定例教育委員会の日程について（教育政策課）

- 3月定例会教育委員会については、3月26日（水）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

高森教育長が閉会を宣し、終了した。（15時10分）